



図書館友の会けやき ニュースレター 2017.10.12

特集 京都府立京都学・歴史館を訪ねて

8月7日、けやきのメンバー数人で、今年（平成29年）4月28日にオープンした「京都府立京都学・歴史館」（以下「歴史館」と表記）を見学、取材しました。約1時間各自自由に館内を見学の後、職員の方への質問とそれに対する回答の時間を作って頂きました。以下、けやきメンバーとその家族の小学生による見学記です。

●オープンな外観に誘われて

コンサートホールと植物園、府立大学に隣接するガラス張りの美しい建物。立地はほとんど同じなのに、以前の府立総合資料館とはがらりとイメージを変えている。歴史館は、目的がなくても、ふらりと立ち寄ってみたいくなる、そんな外観だ。

まだ、未完成の場所もあるため、1階はがらんとしている。訪れた日は、台風による警報が出ていたが、自習室にだけは学生がたくさん訪れていた。夏休みに入ってから小学生の利用もあるといい、地域に開かれているようだ。

2階の京都資料総合閲覧室は、小規模ながらほかの図書館では見られない地元紙のスクラップや、地域で編集された郷土資料が書架に並んでいる。閲覧のみで、貸出できない分、確実に目当ての資料と出会えるのはうれしい。専門家だけでなく、在野の研究者や子供の宿題にも幅広く使えそうだ。

建物は吹き抜けになっており、気持ちがいいが、声が通りやすい。2階の閲覧室の静かな環境をどう守るかが課題だそう。開架されていない書庫内の貴重な資料や、事前予約制のデジタル資料を閲覧するのは、少し敷居が高い。一般、子供向けに書庫探検ツアーなどを定期的に開催していただけたら、宝の持ち腐れにならず、府民にも身近な存在になるだろう。

残念ながら移転してしまった、大阪府の万博公園内にあった国際児童文学館。たまにしか行けなかったが、公園で遊んだあとに行くのが楽しみだった。北山には観光で訪れる人も多いだろう。他府県から植物園やコンサートホールに来た人が、歴史館で京都の資料に触れて帰るのが定番コ

●「史料」を身近に

1階を一巡りしたのち、2階の探究フロアに行き、開架コーナーで『行政文書写真帳』に目が行きました。その中から『寺院明細帳』を開いてみました。

明治16年、寺院はどのような状態だったのだろうか？ 緑の寺院は記されているのだろうか？ そのような興味で開いてみると、各寺院のことが詳しく、境内地の地図や所有地、当時の住職、檀家人数などが書かれていました。このような台帳が存在することを知る機会となりました。

以前「古文書を読む」講座に参加したことがあります。一字一字解読して半紙半分ほどに書かれた内容を解説していただきました。解読作業も楽しいものでしたが、読み終えた時、時を超えてその中の人々が現れてくるような不思議な感じを今もよく覚えています。遺言書や借用書でしたが、このような古文書から人間ドラマを作ることのできる人もあるでしょう。

そのような才能は到底ありませんが、もし古文書をヒントにした物語があるなら読む楽しみは味わうことができます。児童文学の『いるは走る』（大塚篤子作 小峰書店）が、江戸時代柏崎と桑名に離れて住む親子の手紙のやり取りをベースに、当時の子供の姿を生き生きと表現した物語であったように、所蔵されている行政文書や東寺百合文書などの「史料」から、その時々を生きた人々の息遣いを感じることができると、「史料」が更に身近に意味を持ったものとして存在することになるでしょう。 (北園)

●利用してみました

見学当日の自由見学の1時間はあっという間に過ぎてしまい、物足りなかったのが、後日利用方々再訪問致しました。11時30分「歴史館」到着。まず、席を確保しておくために学習室に入室しましたが、約80席ある机は満席状態（因みに、この日は小ホールが学習室として開放されました）。まず、見学の時に1番気になった地形図を見る事にして、2階の「京都資料総合閲覧室」の地図コーナーで2.5万分の1の地形図を閲覧しました。

地形図を閲覧するには、職員の方に鍵を開けてもらわなければなりません。必要な区域を指定し申請すると取り出してくれます。それはすぐ横の指定閲覧席で自由に手に取って見ることができます。さらに、その一部を後でゆっくりと見たい時などは、複写サービスを受けられます。「歴史館」に揃えられている地形図は、京都府の含まれる地域のみですが、大日本帝國陸地測量部発行の明治時代のものから、平成29年国土地理院発行のものまで揃っています。並べると年代による変化が読み取れます。私はその中から6年代分を2倍の拡大で複写サービスを受けました。複写申込書に必要事項を記入、カウンターで承認印をもらった後複写サービス室で業者（凸版印刷）の方が1枚につき、白黒20円、カラー30円でコピー箇所や濃淡なども確認しながらコピーしていただきました。仕上がりは満足です。

1時過ぎ、臨時に設けられた飲食コーナーで昼食（今後、飲食室を設ける案もあるそうです）。その後、運良く空き席のでた学習室へ移動。この原稿は学習室で書いています。学習室の机は、幅約70cm、奥行約60cm程のスペースを前、左右高さ55cm程度の板で仕切っており、左右の人の動きは気になりません。左手奥には明るさを調節できるアーム型のLEDランプもあります。椅子は背もたれ付き、座

けやき
の
本棚

No. 54

ぐるりと

島崎町作 ロクリン社 2017年

シンは図書室で一冊の本を手にとった。文庫くらいの大きさで、手づくりの本だ。手書きの文章で上下二段にわかれていて、

上の段は縦書き、下の段は横書きで文字がさかさまに書かれている。シンはさかさまの文章を読もうとして本を回転させた。その瞬間、世界が「ぐるりと」回転した。

本書の装丁は、シンが手にした本と同様、上下がさかさまです。本を「ぐるりと」回転させながら、シンと一緒に冒険へ出かけましょう。 (左京図書館・相原俊彰)

面も硬過ぎず軟らか過ぎず、キャスト付きです。部屋の中はもちろん私語はありません。かといって、ピリピリした緊張感の強い雰囲気でもなく、入退室時の人の動きも気に障りません。勉強などをするには良い環境です。

「歴史館」の2階には府立大学の図書館も併設されていて、利用可能。利用カードを作り、借りることもできます。また、西隣の府立植物園には新しくできた北泉門（「歴史館」の南西側になります）で直ぐに移動できます。植物園散策の折、疑問に感じたことを調べるにも良い環境です。日々の楽しみが増えたように感じました。

(増井)

● 「誰もが学べる交流・発信拠点」に期待

「京都府立京都学・歴史館」が、2017年4月末にグランドオープンした。1963年以来京都に関する総合的な資料の保存・収集・公開を行ってきた京都府立総合資料館が移転新設されたもの。旧来の総合資料館の機能に、京都の歴史・文化に関する研究支援や学習・交流の拠点としての機能を新たに加えての誕生である。

「歴史館」は、京都コンサートホールの南隣り、京都府立大学の敷地内にある。もとの総合資料館から徒歩で数分南に移動したというところであろうか。

地下鉄「北山駅」から徒歩4分、市バス「府立大学前」から徒歩6分と公共交通機関からのアクセスは悪くない。一部資料がWeb公開されているとはいえ、資料の借り出しができない閲覧のみの施設なので、いかに利用者がこの施設にたどり着きやすいかどうかはとても大事な要素である。JR京都駅からも地下鉄1本で来ることができるの

は、北部・南部の京都府民にとっても好都合だろう。ただ駐車場利用料は1時間300円、公共交通機関利用促進の意図はわかるが閲覧のみの資料館・公共施設の利用料としては高額ではないか。

新たに建築された建物は地下2階・地上4階建て。地下1・2階は収蔵庫で、一昨年ユネスコ「世界の記憶」に登録されて話題になった国宝「東寺百合文書」を始めとする貴重な資料や美術工芸品等が収められている。

地上3・4階は京都府立大学文学部の学舎である。同一施設内に大学の学部施設と資料館が同居することで、相互の交流はさらに促進されることだろう。現に総合資料館時代より中・高・大学生ら若年層の利用がかなり増えているという。研究・学習の交流はもちろんであるが、従来の総合資料館の、研究者や専門家以外はもっぱら「歴史好きの中高年が通う施設」というイメージを突き破るような、「京都の歴史・文化に関心を持つあらゆる世代」の学習・世代間交流の施設となるよう、施設の活用や情報発信に工夫していただけたらと思う。現在のセミナーや講座は主に成人を対象としているが、小学校高学年ぐらいから参加可能な歴史館の宝物を紹介する見学・体験セミナー等を随時開催して、若年から京都の歴史・文化に関心を高め深める機会を作ってもらえないだろうか。

そのような学習・交流の場として、「交流フロア」と名付けられた1階フロアが用意されている。すでに様々なイベントやセミナー・講座・展示等も実施されていて、500席弱の大ホールではオープニング記念としてデザイナー桂由美氏のファッションショー「若冲を着よう」が開かれた。大ホールでは、ほぼ月1回のペースで「京都を学ぶセミナー」、京都学ラウンジで職員による「ミニ講座」も開かれている。展示室では、見学時は「京都の歴史を彩る

ハリー・ポッターと賢者の石

J.K.ローリング著 松岡佑子訳 静山社 1999年

私は1年生の時、図書委員おすすめの本で、この本を見つけた。この本に魔法がかかっていると思った。それほどストーリーが面白かった。主人公のハリーが先生に処罰をうけた時やス

ポーツで勝った時の気持がとてもよくわかった。私が1番好きなのは、ダンブルドアという人で、物語の中で今世紀もっともい大な魔法使いだ。1番好きな場面はハリーが、いつのまにか「賢者の石」をポケットの中に入れていた場面だ。ダンブルドアの、しかけは「賢者の石」をほしい者だけが（使いたい者ではない！）とりだせるという発想が、とても面白かった。（小3・倫子）

人々一近代編一」（10月14日からは「池大雅展」）が開かれていた。ギャラリートークも期間中数度行われている。また京都学ラウンジでは、京都の特産品である丹後ちりめんのパネル展示が行われていた。製造工程などの写真パネルやちりめん織物の現物が展示されていたが、関連する所蔵資料の展示や関連資料のリスト等、展示と歴史館所蔵資料とを結ぶ工夫が欲しいと思った。

1階には、総合資料館時代も人気のあった学習室もある。京都市内の公立図書館は自習スペースのあるところがないので、新施設でよりプライバシーを尊重する個別性の高いものとなった自習空間は、奪い合いとなるだろう。その他1階には、将来的には飲食施設が設置される可能性もあるという。

そして、2階は「探究フロア」。閲覧席は探究フロア全体で350席、グループ閲覧室も2室、歴史館所蔵の開架資料は約2万冊である。同じフロアに府立大学図書館もあり、これまで総合資料館が収集・所蔵してきた京都に関する図書資料・古文書・行政文書・写真資料・団体発行のリーフレット等約74万冊（点）に加え、京都府立大学・府立医科大学附属図書館の所蔵図書約20万冊と学術雑誌約2000種を、一般の利用者も閲覧できることになった。府立大学・府立医科大学附属図書館の図書は、京都府内在住者等を対象に新たに貸し出しサービスも始まる。

情報検索コーナーなどでは、所蔵資料の検索の他、総合資料館が独自に作成した「東寺百合文書WEB」や「京の記憶アーカイブ」、「京都関係新聞」、「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」のデータベースを利用できる（要申請）。

さらに、1階の京都学デジタル資料閲覧コーナーで、東大資料編纂所が作成した陽明文庫所蔵資料（近衛家伝

来の資料）の一部のデータベースも閲覧が可能になった（HP上の資料一覧で確認の上事前申し込みが必要）。情報端末機器を備えた座席は20席足らずで多くはないが、閲覧室全体と1階フロアの一部でWi-Fiサービスを利用することができる。経年による劣化が進む貴重な資料のデジタル化と公開は、歴史館の大きな仕事のひとつだろう。

今回の見学の前後に何度か歴史館のホームページにアクセスしたが、歴史館自体のホームページの利用案内等が他の京都府の各種施設と横並びでそっけないのに対し、「東寺百合文書WEB」や「京の記憶アーカイブ」のページは、いわゆる素人にも馴染みやすく感動した。特に「東寺百合文書WEB」内の「Kid'sひやくごう」は、子どもだけでなくおとなの古文書入門者の手引きとしても大いに役立つ。もっと広めて欲しいと思う。

歴史館には、研究・学習や知的好奇心を満たすものだけでなく、京都の地図や行政資料など実生活に即結びつく資料も多数所蔵されている。「歴史館に行こう、利用しよう」と思わせるような敷居をより低くする工夫をぜひお願いしたい。

利用者のマナーが問題になるが、まずは施設や所蔵資料の存在を広く知ってもらうことが大事だろう。海外から京都を訪れた方たちにも役立つ施設であって欲しい。「世界とつながる京都学の研究・交流拠点」として花開いて欲しいのはもちろんだが、「誰もが学べる交流・発信拠点」としての施設や資料の活用・情報発信を大いに期待している。（永井）

チャリング・クロス街84番地

書物を愛する人のための本

ヘレーン・ハンフ編著 江藤淳訳 中公文庫 1984年

1949年米国の児童文学や脚本を書く女性から、ロンドンの古書店に送られた一通の手紙に始まり、書店員との20年にわたる交流を綴る書簡集。書物の本来あるべき姿、それを愛する

人々、その人々の心が奏でた善意。ささやかな本に流れる、心暖まる時間。

「世の中が荒れ果て、悪意と敵意に占領され、人と人との間の信頼が軽んじられる現代にあつてこそ、この本の存在意義は大きい。」と江藤氏が解説に書いてから45年が経つ。

（左京区・ねこま）

REPORT 図書館友の会けやき総会

図書館懇談会とボランティア交流会

2017年6月12日

2017年度 けやき総会

6月12日、会員14名と、来賓として市村左京図書館館長と村井左京区社協事務局長にお越しいただき、総会を開催しました。

市村館長より「2年間ですべての職員が異動となりましたが、スムーズに職務を行えていると思っています」、村井事務局長より「社会的には子供の貧困が問題となっていますが、解決には教育がカギとなると思います。ボランティアの方々の力を得て、解決していけるとよいと考えます」とご挨拶いただきました。

その後、2016年度の活動報告・会計報告が承認されました。「読み聞かせ交流会」は延べ100名の参加があつて好評であること、「えほんのひろば in きょうと」工作の在り方や場所について工夫が必要と報告がありました。ニュースレターについては、新しくなって読みやすい紙面になったという意見をいただいているということです。

次に2017年度活動方針・予算が承認されました。今年の活動方針は「新たな図書館利用者を得るための方策を、利用者の視点で提案する。図書館を普段利用しない人に利用してもらうにはどうすればいいか、若い人たちが公共図書館に期待していることは何かなどをリサーチし、検討する。活動方針とニュースレター特集や講演会内容をリンクさせる」です。市村館長から職員の方がすべて移動されたと報告がありました。改めてけやきの活動や行事の趣旨を伝えることが大切であること、各行事については継続しながら少しずつ改善していくことが確認されました。事務局に2名の方に加わっていただくことになり、活動がさらに充実すると思います。(北園)

第13回図書館懇談会

図書館から市村館長と神田司書に出席していただき、けやきのメンバーと懇談しました。

まず館長から、2016年度の来館者数、貸し出し冊数について報告がありました。市全館（約424万人、755万冊）、左京図書館（約24.5万人、51万冊）、ともに前年よりいずれも微減。市全館の中で左京図書館の数字は、いずれも伏見中央図書館を上回り、3中央館に次いで4番目に多いとのことでした。

次に職員態勢について。正職員の異動が、前年度、今年度相次ぎ、2年間で顔ぶれが一新したが、大幅なメンバーチェンジをチャンスととらえ、新たな取り組みをしていきたいと話されました。

続いて、神田司書から左京図書館の新しい取り組みが紹介されました。

ひとつは、職員に余裕があり、子どもの来館が多いタイミングで、突発的におはなし会をしたり、カウンターから職員がフロアに出て（フロアワーク）、気軽に声をかけられる環境づくりです。

また、大型絵本を置けるように、専用の棚を準備する予定で、完成すれば少しずつ大型絵本を増やしていきたいとのこと。

そして、左京区が舞台になっている小説等を集め、冊子（リスト）を作る企画を考えていて、利用者からも本を紹介してもらい、リストを充実させていきたいとお話でした。

最後に、質疑応答がありました。主な質問と回答は以下の通りです。

Q：貸出冊数の上限を10冊から20、30冊にしてほしい。

A：貸出冊数を増やすと、貸出期間も長くすることになるため、予約本、人気本がまわりにくくなります。

Q：本の寄贈を断られたことがあるが、どんなスタンスですか？

A：全集や百科事典でなければ、受け入れています。

Q：以前、各館ごとに重点的に取書する分野を分担していた時期があったように思いますが。現状は？

A：分担して取書はしていません。左京図書館の取書方針は、学生の利用が多いので論文関係の本は充実させています。子どもも多いので、幼児から小学生はもちろん、来館が少ないとされる小学校高学年から中・高生への橋渡しとなるティーンズ本の取書も重点的に行っています。

会の終わりに、けやきの永井代表が、左京図書館職員さんのメンバーチェンジを活動を再点検するきっかけの一つと捉え、けやきと図書館との協働の質をさらに深めていきたい、と締めくくりました。(澤田)

第5回 左京図書館ボランティア交流会

総会後の午後1時から1時間余り、左京図書館に関わるボランティアの方々の交流会がありました。参加者は、高見副館長、「図書館募集の書架整理ボランティア」、「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」、「左京図書館お楽しみ会」「図書館友の会けやき事務局」より、全部で12名でした。

「書架整理ボランティア」の方から、分類の仕方、本の整理の仕方について質問や提案があり、また「活動中に利用者から質問されることが多い」と話されました。「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」担当の方からは、子どもへの対応、紙芝居の使い方などについて質問があり、長年活動している方々から具体的なアドバイスがありました。

「お楽しみ会」のボランティアの方から、おはなし会のなかで、参加しているお母さんに向けて何かできないかと意見がありました。今後の課題となるでしょう。

今年、伏見中央図書館から来られた高見副館長からは、「他館と比較してチラシの回転率がよく、情報を得るために来館する方が多いと感じています。チラシ・新聞・お話し会などを通して、いろんな方の役に立てれば…と考えている」とのお話が出ました。紙芝居については、枠の貸し

出しができるということです。町内会などの行事で、利用してみるといいのではないのでしょうか。

それぞれの立場からの、日々感じておられる意見を聞く機会はあまりありません。交流会を機に、気楽に意見交換できるようになればと思います。(北園)

けやきの活動記録

2017年 5月～10月

- 5/12 ニュースレターNo.53、総会・図書館懇談会の案内、活動報告、印刷・発送
 - 6/12 第19回定期総会、第15回図書館懇談会、ボランティア交流会
 - 6/29 左京区ボランティア連絡会出席 (増井)
 - 8/上旬～
ニュースレターNo.54原稿作成・編集
 - 8/7 京都府立京都学・歴史館見学・取材
 - 9/上旬～
「読み聞かせ」交流会に向けて図書館と打ち合わせ・資料作成・印刷
 - 9/29 10/5 10/10
「読み聞かせ」交流会
 - 10/12 ニュースレターNo.54印刷・発送
- <図書館おたのしみ会に協力> (第4土曜)
5/27. 6/24. 7/22. 8/26. 9/23. (第4土曜)
- <絵本学習会> (第4金曜、3.7.9月は第2金曜)
5/26. 6/23. 7/14. 9/22.
- <事務局会議> <図書館とのミーティング> (主に第1月曜)
5/1. 6/5. 7/3. 10/12.
- <「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター活動>
(毎週木曜日10:30-12:00)
5/4.11.18.25. 6/1.8.15.22.29.
7/6.13.20.27. 8/3.10.17.24.31.
9/7.14.21.28. 10/5.12.

図書館友の会 けやき の仲間になりませんか

知りたい 調べたい 本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ 一人一人の世界を豊かにしてくれる場所

それが私たちの願う図書館です

京都市左京図書館が市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと1999年に「けやき」を立ち上げました。図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきませんか。

次のような活動をおこなっています

であいの森

左京図書館のおたのしみ会（毎月第4土曜日 11:00）に協力。
絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター

毎週木曜日 10:30～12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

誰もが利用できる図書館を考える

図書館の現状を調べ学び、図書館に提案をしています。

ニュースレター編集部

友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者をつなぐけやきの活動の情報を発信しています。

事務局

けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画・協力。各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

絵本学習会

毎月第4金曜日 10:00～。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

講演会・学習会

主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

◆入会希望の方は年会費500円をそえ、下記郵便振込口座にお申し込み下さい。

郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914 番
口座名称 図書館友の会 けやき

◎年会費はニュースレターの印刷および郵送費の一部に充当します。

◎活動費の寄付も歓迎。直接又は上記の振込口座をご利用下さい。

けやき情報版

左京図書館絵本学習会

時：毎月第4金曜 午前10～12時（3月7月12月は第2金曜）

所：左京図書館の上3階会議室

テーマを決め、図書館から本を借りてその場で読み合っています。読んでもらう喜びが味わえ、新たな発見も生まれます。小学校でのおはなし会活動などの情報交換も。とっても楽しい集まりです。

11月24日の「林明子絵本原画展見学会」に向け、10月27日は「林明子さんの絵本」を読み合います。

どなたでも、どうぞ気軽に、ご参加ください。

2017年度けやき・左京図書館共催 キム・ファンさん講演会

時：2018年2月

所：左京図書館の上3階会議室

講師は動物児童文学作家・絵本作家のキム・ファン(金晃)さんに決定。自作の児童文学・絵本・紙芝居についてはもちろん、韓国の図書館や子どもの本の出版状況についてもお話いただきます。

開催日等詳細はニュースレター次号とチラシでお知らせします。ぜひ、ご参加下さい。

編集後記

秋恒例の左京図書館「読み聞かせ交流会」で、ここ数年子ども向けの科学の本の紹介を担当しています。今年のテーマは「地図」で、10月5日に開催しました。準備では、まず図書館の蔵書検索機能を使って本を探しますが、実際に書架の間を巡ると、地図に関する新たな本との出会いが。さらにテーマとは別の面白そうな本もみつかって。寄り道したい気持ちを押し返して準備に励みました。この会の報告は次号で。今号の特集では、歴史館で京都府の新旧様々な地形図を閲覧できるサービスが具体的に紹介されています。ぜひ利用したいと思います。（島崎）

左京図書館の職員さんがこの2年で一新、新たな職員さんもお持ちのスキルを最大限に生かして活躍いただきたい。先ごろ建築家の安藤忠雄氏が大阪市に子ども図書館を建設することが発表されたが、図書館は入れ物以上に資料と人が大事。どの図書館も収集する資料とそこで資料と利用者をつなぐ人の質を大切にしたい。（永井）

◇けやき 第54号 2017年10月12日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部
題字：吉政 富美子 デザイン：伊藤 理恵子

◇発行 図書館友の会 けやき

<http://totomo-keyaki.com>